

令和3年度 学校課題研究計画

1. 研究主題

自分の思いや考えを伝え合う児童の育成
～「いい顔」を支える書く力を高める指導を通して～

2. 研究主題設定理由

AIやオンライン通信の発達など社会的変化が複雑化・多様化する中で、変化が激しく予測が困難な時代を児童たちが自信をもって未来を切り拓き、他者と協働して課題を解決し、より良い社会を作り出していくことができる資質能力を育成するには、3つの柱である①実際の社会や生活で生きて働く「知識及び技能」②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」等③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性」等の資質能力をバランスよく育むことが肝要である。そのために「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善を実現することが大切である。本校では、漢字力・計算力テストなどの指導により、基礎基本的な力は定着されつつある。反面、友達の前で自分の考えや意見を発表することは苦手であると感じている児童が多く、自分の考えを書いて伝えることや調査問題では、算数の記述式問題に対して根拠を明らかにして回答することに課題が見られた。そこで、教科等の「見方・考え方」を働かせたり、「横断的」に学んだりする中で、根拠を明確にし、自分の思いや考えを伝え合うことができる児童の育成を目指していくこととする。昨年度は、書く意欲を高める方法や書く場面の設定などを研究し、誰もが何かを書こうとする雰囲気作りができてきた。今年度は、さらに書くことを通して、自分の思いや考えを伝え合う書く力を高める指導の研究を進めていくことで、表現力が育成され学力向上につながっていくと考え、研究を進めていきたい。

3. めざす児童像

○学校教育目標

自ら学び確かな学力を身に付け 心豊かに たくましく生きる 旭の子

○本校の目指す児童像

自ら学ぶ子ども 思いやりのある子ども たくましい子ども 人や地域を大切に作る子ども

○学校課題で目指す児童像

主体的に学習に取り組み、自分の思いや考えを伝え合う子

※それぞれのブロックで作成

ブロック	目指す児童像
低	自分の思いや気持ちを持ち、生き生きと書くことができる子
中	自分の思いや考えを持ち、相手に分かるように書き、考えを伝えることができる子
高	根拠を明確にし、自分の思いや考えを適切に表現することができる子
特・日	自分の思いを言葉で表そうとする子

4. 研究の仮説

- (1) 自己指導能力を育む児童指導を目指すことで、一人一人に自己存在感をもたせ、共感的な人間関係を育み、自己決定の場を設定することにより、落ち着いた環境の中で学習ができ、学業充実につながるだろう。

- (2) 本時のねらいに応じたためあて・まとめ・振り返りをしっかり設定し日常化すれば、見通しをもって学習に取り組むことができ、主体的に学習する児童を育てることができるだろう。
- (3) 目的意識や相手意識をもたせて学習課題を明確にした上で、一斉学習やペア学習などを取り入れることで児童は、主体的に学習活動に取り組むだろう。
- (4) 国語だけでなく、他教科、日常生活で表現力を伸ばすことを目指して指導法を工夫すれば、注意深く話を聞き自分の気持ちや考えを豊かに表現する児童を育てることができるであろう。
- (5) 学校生活の様々な場面に、スピーチ、日記指導、ワークシートの記入等、言語活動を充実させることで、自分の考えや気持ちを伝え合う力を育てることができるであろう。
- (6) 「全国学力・学習状況調査」「とちぎっ子学習状況調査」「QU 検査」「本校独自の集団の状況調査」などの検査結果から現在の到達度を把握し、分析・改善策を練ることでそれぞれの教科の落ちこみに対処し、書く力の向上にも結びつけることができるであろう。

5. 研究の内容

- (1) 各教科を通して、思いや考えを明確にしたり深めたり、また、相手に思いや考えを伝えたりする書く時間を確保する。
- (2) 児童が主体的に学習に取り組めるように、目的意識・相手意識をもてるような状況を設定する。
- (3) 学習のやくそく・自主学習の手引きで学習の方法を示したり、自主学習ノートを紹介したりして、自主的に学習する意欲を育てる。
- (4) 児童が思いや考えを伝え合えるような学習場面の設定を工夫する。
- (5) 言語環境の整備と言語活動の工夫をし、語彙力、表現力、伝え合う力を高める。
 - ①スピーチの時間を確保し、テーマを設定したり発達段階に合わせて話型を示したりして伝え方の基礎力の向上を図る。
 - ②読書カードや音読カードを活用し、読書を推奨したり、音読指導の充実を図ったりする。
 - ③辞書の常時利用を推奨し、語彙力を高める。
 - ④ノートや日記の書き方の指導を丁寧に行い、書くことの基礎力を高める。
 - ⑤100マス作文に全校体制で取り組み、書くことへの抵抗を減らし、書くことの日常化を図る。
- (6) それぞれの学力調査結果を全職員で分析し、改善したり、フォローアップシートやパワーアップシートなどを活用したりして、学力の定着を図る。
- (7) ブロック毎の目指す児童像に向けて具体策や検証方法を明確にする。
- (8) 各自の授業の視点を明確にして授業実践する。

